



セミナーハウスニュース No.187 主な内容

巻頭言	1
法人ニュース	2
50周年記念事業進捗状況	3
S P A運用スタート	4・5
ご利用状況・ご利用の先生より	6
千人会通信	7
運営幹事からの一言・館長室から	8



講堂前の紅葉

巻頭言

大学セミナーハウスと留学生

首都大学東京 理工学研究科教授・都市教養学部長 岡部 豊



大学のみならず、世の中全体でグローバル化が重点課題とされていることは、今さら言うまでもありません。我が国の大学生が内向きになっているとの指摘もあり、官民協働の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」などの学生の海外留学

を促進する支援が行われています。一方、日本政府は、留学生の大幅な拡大をめざす「留学生 30 万人計画」を 2008 年に発表しました。各大学にとって、留学生のための宿舎の確保は、緊急の課題となっています。

大学セミナーハウスでは、開館 40 周年を期に、2005 年に、構内の一角に「留学生会館」を建設され、各大学の留学生の宿舎を提供していただいています。筆者の勤務する大学が、大学セミナーハウスに近いことから、多くの留学生がお世話になっています。また、正規留学生だけでなく、短期の研修目的の留学生が増えていることから、大学セミナーハウスでは、本年(2014年)、「留学生短期滞在応援プラン」という留学生教育支援策を講じていただき、筆者の周辺の短期留学生もお世話になりました。多くの利用希望があり満室の状況になりましたが、一方、自炊設備の不便さなどの問題もあり、一旦、このプランを休止し、施設の改善等をした後、再開する予定と伺っています。

実際に滞在している留学生に聞くと、何よりも自然に恵まれた環境が気に入り、待ち状態であった学内宿舎の順が空いても、大学セミナーハウスの「留学生会館」を利用し続ける留学生が多いとのこと。他大学を含む各国からの留学生との交流ができることも利点である

し、また、「留学生会館」の管理をされている中国人スタッフの人柄が、魅力であるとのこと。留学生の学業の進展状況も把握されているなど、「親」代わりの役割を果たされているかと思えます。1点要望をあげるとすると、東アジア以外の国からの留学生にとっては、会館内の掲示等に英語表記がないことは、多少不便であるようです。従来、留学生というと中国からの留学生が多く(どこの大学でもそうですが)、漢字があればよかったですと言えますが、現在は、大学セミナーハウスの「留学生会館」には、多くの地域の国からの留学生が滞在されています。大学セミナーハウスでも、言語の問題を重要視され、英語のパンフレットも作られ、急速に「英語化」を進められています。

グローバル化において、「英語化」も必要ですが、もちろん、人的な相互交流・理解がより重要です。大学セミナーハウスでは、大学間の壁を越えた大学教育の場を提供し、各種事業を展開されていますが、恵まれた自然環境を活かして、留学生支援を一層進めていただくことを期待しています。そのための資金も必要と思えますが、理事長、館長をはじめ、職員の方々が、非常な努力をされています。大学からも提案をして、グローバル化という目標に向かい、共に前進することを望んでいます。

岡部 豊 (おかべ ゆたか) プロフィール

略歴:

- 1950年 埼玉県に生まれる
- 1977年 東京大学大学院理学系研究科博士課程(相関理化学)単位取得退学
- 1979年 東北大学理学部助手を経て助教授
- 1992年 東京都立大学 理学部教授
- 2005年 首都大学東京 都市教養学部教授(大学統合による)を経て大学院理工学研究科教授(組織再編による)
- 2009年 理工学研究科長
- 2013年 都市教養学部長

第13回理事会 (平成26年度第1回)

- ◎平成25年度事業報告承認
- ◎平成25年度決算承認
- ◎食堂運営業者「東京ケータリング」に決定
- ◎50周年記念募金1000万円に迫る

第13回(平成26年度第1回)理事会が、平成26年5月20日(火)16時から18時50分、桜美林大学四谷キャンパスで、理事7名、監事1名の出席を得て、開催され、全議案、滞りなく全会一致で承認された。

第1号議案は、「平成25年度事業結果報告」で、50周年記念事業の進捗状況(建設業者確定、リニューアルの2項目の確定、プロジェクトアドベンチャーの先行導入等)、募金状況(これまでの募金額976万円に)、年間宿泊者数が3万1651名となり、昨年度より1455名の増加となったこと、利用者拡大のための諸施策を実施、特に、留学生のための短期宿泊支援事業の実施に手ごたえがあったこと、会員校の減少に歯止めがかかっていないこと等の事業結果報告があり、承認された。

第2号議案は、「平成25年度決算」で、公益法人会計基準に基づいて、貸借対照表、正味財産増減計算書(下記一覧表参照)、財産目録等について説明。特に、正味財産は2000万円増加したこと、減価償却引当資金を若干積み増すことができたこと、公益法人3原則(公益率、収支相償、内部留保)が維持されていること等の説明があり、続いて、監事より監査上の問題がない旨の監査報告があり、承認された。

第3号議案は、「食堂運営業者の選定」で、食堂業者は、これまで通り委託にすることとし、業者の選定を進めてきたが、最終的に、食事の選択、懇親会の同時設定、開店時間の幅、専門性、人件費等を考慮し、「東京ケータリング株式会社」に委託することを決定した。

第4号議案は、「評議員会の議案の追加」で、増田理事(法政大学前総長)の辞任に伴う「理事の欠員補充」を追加することを決定した。

正味財産増減計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益	230,930,159	225,953,739	4,976,420
基本財産運用益	1,107	2,126	△ 1,019
特定資産運用益	7,587	6,751	836
事業収益	179,617,519	175,094,027	4,523,492
受取補助金等収益	290,000	200,000	90,000
受取会費・寄附金収益	50,940,000	50,500,000	440,000
雑収益	73,946	150,835	△ 76,889
(2) 経常費用	217,197,868	220,543,244	△ 3,345,376
事業費	207,231,186	209,975,420	△ 2,744,234
管理費	9,966,682	10,567,824	△ 601,142
評価損益等調整前当期経常増減額	13,732,291	5,410,495	8,321,796
2 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	108,557	65,029	43,528
当期経常外増減額	△ 108,557	△ 65,029	△ 43,528
当期一般正味財産増減額	13,623,734	5,345,466	8,278,268
一般正味財産期首残高	899,842,088	894,496,622	5,345,466
一般正味財産期末残高	913,465,822	899,842,088	13,623,734
II 指定正味財産増減の部			0
受取寄附金	7,320,000	1,110,000	6,210,000
当期指定正味財産増減額	7,320,000	1,110,000	6,210,000
指定正味財産期首残高	1,110,000	0	1,110,000
指定正味財産期末残高	8,430,000	1,110,000	7,320,000
III 正味財産期末残高	921,895,822	900,952,088	20,943,734

第6回評議員会 (平成26年度第1回)

- ◎平成25年度事業報告承認
- ◎平成25年度決算報告承認
- ◎新理事に田中優子法政大学総長が就任

第6回(平成26年度第1回)評議員会が、6月20日(金)16時より、桜美林大学四谷キャンパスで佐野評議員会議長以下9名の評議員の出席を得て開催され、議案はすべて滞りなく承認された(理事及び監事陪席)。

第1号議案は、「平成25年度事業結果報告」で、①50周年記念事業の進捗状況、②募金状況、③年間宿泊者数が3万1651名となったこと、④利用者拡大のための諸施策を実施、特に、留学生のための短期宿泊支援事業の実施に手ごたえがあったこと、⑤会員校の減少に歯止めがかかっていないこと等の事業結果報告があり、承認された。

第2号議案は、「平成25年度決算」で、公益法人会計基準に基づいて、貸借対照表、正味財産増減計算書(左記一覧表参照)、財産目録等について説明。公益法人3原則(公益率、収支相償、内部留保)が維持されていること等の説明があり、続いて、監事より監査上の問題がない旨の監査報告があり、承認された。

第3号議案は、「理事の欠員補充」で、新たに、田中優子法政大学総長の理事就任が満場一致で承認された。任期は、前理事の残任期間で、2015年の評議員会までとなる。

平成26年度 理事・監事・評議員名簿 平成26年10月31日現在

役職	氏名	常勤・非常勤別	勤務先等職務
理事長	佐藤 東洋士	非常勤	桜美林学園理事長
館長	鈴木 康司	非常勤	日仏会館評議員
専務理事	程島 俊介	常勤	総務・財務担当
理事	荻上 紘一	非常勤	大妻女子大学学長
理事	鈴木 典比古	非常勤	国際教育大学学長
理事	田中 優子	非常勤	法政大学総長
理事	山内 進	非常勤	一橋大学学長
理事	佐藤 和人	非常勤	日本女子大学学長・理事長
理事	仙波 憲一	非常勤	青山学院大学学長
理事	小川 哲生	非常勤	明星学苑理事長
監事	沖永 佳史	非常勤	帝京大学理事長・学長
監事	郷 通子	非常勤	情報・システム研究機構理事

評議員

役職	氏名	常勤・非常勤別	勤務先等職務
評議員	佐野 博敏	非常勤	大妻女子大学名誉教授
議長			
評議員	鷲山 恭彦	非常勤	東京学芸大学名誉教授
評議員	篠田 節子	非常勤	作家
評議員	小磯 明	非常勤	東京都議会議員
評議員	福田 一郎	非常勤	東京女子大学名誉教授
評議員	川島 堅二	非常勤	恵泉女学園大学学長
評議員	村田 雄二郎	非常勤	東京大学教授
評議員	小畑 秀文	非常勤	国立高等専門学校機構理事長
評議員	山本 真一	非常勤	桜美林大学教授
評議員	上野 淳	非常勤	首都大学東京大学院特任教授
評議員	大井 孝	非常勤	国際教育振興会理事長
評議員	高石 道明	非常勤	信州大学元教授
評議員	福井 憲彦	非常勤	学習院大学前学長
評議員	安西 祐一郎	非常勤	日本学術振興会理事長
評議員	福宮 賢一	非常勤	明治大学学長
評議員	石森 孝志	非常勤	八王子市長

50周年記念事業の進捗状況

開館50周年記念事業は、①食堂棟の建設、②既存施設の一部リニューアル、③体験型研修プログラムとしてのプロジェクトアドベンチャーの導入の主要3事業で、以下最新の進捗状況を報告します。

①食堂棟の建設と食堂運業者について

地場産業である相場建設グループに決定後、工事のスケジュール、具体的な設計作業と手続関係の作業をしている段階で、環境面での課題も解決、事前のインフラ整備に入るところです。また、食堂運業者も「東京ケータリング株式会社」に委託することとなりました。場所は交友館とバーベキュー広場の間で、1階平屋、座席数最大270席、木造、屋根にソーラーパネルを設置します。空間を間仕切ること、複数の懇親会が同時にできるスペースを確保しますし、食堂棟と隣接してバーベキュー広場を作りますので、これまで以上に使い勝手はよくなります。着工は2015年4月で、竣工は2016年3月を予定しています。躯体工事費、設計監理費、厨房設備費等で、1億5000万円を予定。

②既存施設のリニューアルについて

資金上の限界から、既存施設のリニューアルについては、講堂と長期館セミナー室Bに限定しました。講堂は、寒さ対策を含め風除室を設けることと、防音対策の観点から2重サッシにするなどの改修を行います(967万円)。これまで音の出る研修を行う場合は中央セミナー室しか利用できませんでしたが、今後はより広い講堂も使えるようになります。今年10月には改修をし、1月からは利用できるようにします。長期館Bは、女性専用の風呂の改修とパウダールームの設置等を図るとともに、爆裂の補修を行います(1393万円)。女子学生にとって快適な入浴ができるように計画しております。この工事は来年度になります。

このほか、多くの寄附のご協力がいただけましたら、松下館の外装塗装も検討したいと存じます。

③体験型研修プログラム(セミナーハウスプロジェクトアドベンチャー:SPA)の導入

50周年記念事業の一環として、今年度は第一期(525万円)として、7基のエレメントを多目的広場に設置しました。このエレメントをツールに、教養教育の一環として、挑戦、思いやり、当事者意識、課題解決能力、他者との連携をキーワードに、コミュニケーションやチームワークづくり等、ゼミ合宿、クラブ活動、新人研修等に活用したいと考えております。本年9月に、PA関係者のフェスティバルを100人規模で実施し、10月以降はファシリテータ講習会を開き、SPAの指導者育成に取り掛かっております。さらに、ゼミ合宿や、既存セミナーへ一部取り入れるプログラムの開発を検討しています。追加の設備については、寄附の状況、利用者の状況を見ながら判断したいと考えております。

④その他関連事業

50周年記念事業としては、このほかに、記念式典、記念誌の刊行、関連イベント等についても検討しております。

⑤資金計画及び募金活動について

主要3事業を展開する資金としては、2億円以上が必要になりますので、借入金1億8000万円を中心に、寄附金を少なくとも2000万円以上は集めたいと考えております。借入金に関しては、多摩信用金庫(さくら館建設時に借り入れた金融機関)から1億8000万円の借入れが決定いたしました。寄附金については、鋭意努力しているところですが、現在1000万円を超えたところです。あと2年間で1000万円を集めるべく努力をいたしますので、さらなるご協力をお願いいたします。

開館50周年記念事業寄附金寄付者ご芳名

大学セミナーハウス開館50周年記念募金へのご支援を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

今号は2014年4月1日から9月30日までのご寄附を対象に、ご芳名を50音順にご紹介いたします。なお、ご芳名の公表を希望されない方につきましては掲載いたしておりません。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、くれぐれも宜しくお願い申し上げます。

○寄附者ご芳名(企業・団体)

月兎ソース(株)様/八南交通(株)様/株横浜電業様

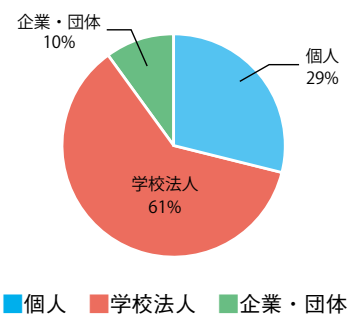
○寄付者ご芳名(個人)

今堀和友様/犬塚博様/郷通子様/島田治夫様/白井克彦様/立河清之様/椿次様/本江哲郎様/松島恵様/山岸健様/山田耕司様

開館50周年記念事業寄附金状況 2014年9月30日現在

区分	件数	寄附金額(円)
個人	113	2,925,000
学校法人	12	6,150,000
企業・団体	13	1,060,000
合計	138	10,135,000

■内訳構成費(全額)



SPA 運用スタート

■第1回 SPA ファシリテータ講習会

セミナーハウス・プロジェクトアドベンチャー (SPA) プログラムを展開するためには、それを指導するファシリテータの養成が急務である。今回初めて開催することになった講習会は、プロジェクトアドベンチャー・ジャパン (PAJ) の後援をいただき開催した。PAJ が実施しているアドベンチャープログラミング (AP) 講習会を受講し、ファシリテータとして様々なグループの指導を担当された経験のある方が対象であった。講習は、第1部を10月25日に、第2部を26日に予定していたが、第2部 (SPA のローエレメントを使った、PA プログラム展開のブラッシュアップの実習) は受講者が少なく中止した。次の機会に開講する予定である。

10月25日開催の第1部では、現役の教師、研修会社の経営者、フリーランスの方などプロジェクトアドベンチャー (PA) の指導経験がある14名の方が受講された。講習では①「大学セミナーハウスの目的と理念」と②「SPA 開始の趣旨」については程島専務理事、③「SPA の主要テーマとなる「新しい教養概念」」についてはSPA 運営委員長・松岡信之氏、④「5Cモデル」についてはPAJ トレーナー・門田卓史氏、⑤「SPA のLOP (ローカル・オペレイティング・プロシージャ、いわゆる管理運用マニュアル)」の説明については池田SPA 担当課長が担当した。

今回の講習会を受講された方 (第2部の受講が必要な方を含む) には、SPA のファシリテータとして登録後、これからのSPA プログラムを指導していただくことになる。

■第1回アドベンチャー教育フェス「アドベンチャー×出会い=?」

アドベンチャー教育に関わっている実践者、主に学校の教師を中心に100名以上の方が全国から参集し、9月13日から1泊2日にわたり熱心な討論と相互交流を行った。

このフェスの第1日目の午前中には、プロジェクトアドベンチャー・ジャパン (PAJ) のトレーナーである寺中祥吾氏が稼働したばかりのSPA コースでプレワークショップを実施された。全体のプログラムは、午後1

時から参加者・スタッフ100人全員によるアイスブレイクで一気に学びの場に変身させ、PA のベテランを囲んでPA との出会い、可能性、課題など様々な経験談や思いが語られたところからスタートした。

この後は、グループに分かれてのワークショップなどが行われた。紙面の関係で流れの全体を紹介できないがテーマは次の通りであった。第1日目は、「湘南PACE—子どもたちの学びにアドベンチャーの種を—」「大阪PACE 発足—学校教育にアドベンチャーを—」「宮城県におけるPA 研修の実際」「〇〇× アドベンチャーで新アクティビティをつくろう」「アドベンチャーした子どもたち」、第2日目は「ファシリテーションの真髓を探ろう—PA は省察を促進する道具だ—」「コミュニケーション実習“バスは待ってくれない”」「“アクティビティマネジメント”—アクティビティの汎用性を高める」「ビーイングで1年間のクラスをDesignしてみると」「第70回西多摩秋のゲーム祭り」の五つ。(充実したフェスの様子は企画スタッフを代表して藤樫亮二さんにまとめていただいたので下記をご覧ください。)

このフェスの企画実施にご尽力くださったスタッフ、講師・発表者、PAJ 林壽夫代表はじめ関係者の皆様には多大なご協力をいただいた。ここに改めて御礼を申し上げます。(SPA 担当者記)

ワクワクするアドベンチャーな学びの2日間

アドベンチャーフェス事務局長・藤樫亮二

9月13日 (土)、14日 (日) の2日間、大学セミナーハウスをお借りして「第一回アドベンチャー教育フェス<アドベンチャー×出会い=?>」を開催しました。今回が初めての試みにも関わらず、両日とも100名を超える方々にご参加いただき、大盛会でイベントを終えることができました。

◆「おもしろいことがやりたい！」

教員の自主研修サークル「西多摩PACE」の主宰であり、「クラス全員がひとつになる学級ゲーム&アクティビティ100」の著者でもある甲斐崎博史氏と、研修



100人全員によるアイスブレイクで一気に学びの場に変身! (講堂にて)



「手つなぎトラバース」でアドベンチャー体験（SPA コースにて）

会後に酒を酌み交わしながら話したことです。「よし、やろう。」とすぐに計画が決まり、同じ志を持つ仲間がいる群馬でのミーティング、日本のアドベンチャー教育を牽引する団体プロジェクト・アドベンチャー・ジャパンに企画書持参と、すぐに行動を起こしました。アドベンチャーという言葉に辞書を引くと「成功の不確かなことをあえてやってみること」とありますが、学校教員の有志たちがこの教育イベントを自主企画・運営したということ自体が今回一番の「アドベンチャー」だったように思います。アドベンチャー教育とは、野外教育から派生する体験学習法の一つで、教育学・心理学・社会学などの学問領域にまたがる教育哲学・教育手法です。代表的なものに、プロジェクトアドベンチャー（以下PA）があります。PAでは「遊び」のようなグループ活動を通して、社会的な力（コミュニケーションスキル、リーダーシップスキルなど）や、個人の内面の力（感情や考え方など）について学びます。体験の中で、自身が安心できる学びの集団を作り、その中で自ら成長のための目標に向かって一歩踏み出す行動を試みる。そしてその体験のプロセス（どのように？なぜ？どんな気持ちで？）を振り返ることで気づきを得て、個人と集団を成長させることがこの手法の特徴です。大学セミナーハウスにも、平成25年にロープスコース（丸太やワイヤーで構成されたグループでの課題解決型アクティビティのための施設）が新設され、「セミナーハウス・プロジェクト・アドベンチャー」（SPA）として事業が展開されています。今回の教育イベントは、歴史ある大学セミナーハウスの50周年事業の一端を担い、SPAの広報にも協力する機会となりました。

◆アドベンチャーを通して「つながり」を作る

この教育イベントの一番の目的は、子どもたちの学びに関わる大人たちが、学び続ける仲間を作り、羽を休めるような「相互支援的な関係」を作る一つのきっかけとなることでした。今回100名以上の参加者が、北は宮城から南は大阪まで様々な地域から集まりました。その中から、各地で自主研修団体を立ち上げたり研修講師をしたりしている先生や実践者の方々が、10の分科会で実践発表やワークショップを担当してくれました。

内容は、アドベンチャー教育を学級経営や教科教育でどう活かしているか、効果的な活動の開発と実践、

ロープスコースを使ったファシリテーションの考察、東北での心の復興支援プログラム「バンブーリエンス」の報告など、どれも学びの多いものでした。彼らがそれぞれ自分の地域で開催している定期的な学習会や自主研修会は、日々の教育現場をより効果的にする手法を学ぶ場としてだけでなく、教師としてのあり方を考える自己内省の場にもなっています。今回、新たなネットワークが広がったことで、早速それぞれの勉強会に参加し合っているという噂が届いてきています。「進みつつある教師のみ、他人を教える権利あり」とあるように、私たち教育者自身が日々学び、挑戦し、失敗から学ぶ姿を子どもたちにも見せることは一つのロールモデルです。ましてや、正解のない教育の分野の中で、自らの実践を振り返り試行錯誤する習慣を持つことは大切なことです。

◆ライブ感のある学びは楽しい

また今回は「フェスティバル」と銘打っているとおり、「祭り」の要素を盛り込みました。つながりをつくるために、1日目の全体会は100人が円になりアイスブレイク（緊張をほぐす活動）をすることから始めました。また、各分科会の間に長めの休憩を設定したり、懇親会をゆったり設定することで交流するきっかけとしました。施設面でも、大学セミナーハウス講堂に100人が2日間いつでも集えて関わり合いがしやすいための掲示やファシリテーショングラフィック、アドベンチャープログラムで使うグッズの展示など、ユニークな仕掛けをたくさんしました。時間できっちり決まったスケジュールではなく、その場での参加者全員のライブ感を大切に、臨機応変な進行も心地よいものでした。私たち教育者が、楽しく学び続けていることは、きっと現場の子どもたちにも伝わっていくと信じています。

今回この教育イベントを開催するにあたり、後援として運営のアドバイスと魅力的なワークショップを提供してくれたプロジェクト・アドベンチャー・ジャパン（PAJ）と、施設面で私たちの我儘を叶えてくれた大学セミナーハウスの協力なくして、この成功はあり得ませんでした。改めてこの場をお借りして感謝の意を伝えたいと思います。2015年は、PAJの20周年。今後益々、全国のアドベンチャー教育、広義には体験学習の実践者のネットワークが広がっていくことを願っています。



参加者のライブ感覚を大切に。いつでも語り合える仲間がいる。

平成 26 年度 (4/1 ~ 9/30) 上期利用状況

平成 26 年度上期の宿泊利用者数は 20,343 人で、前年度が 18,694 人でしたので 1,649 人の増加でした。利用内訳は会員校の利用が減少傾向にあったため、従来のプランに追加して、留学生短期滞在応援プラン、オープンキャンパス見学者応援プランを実施した結果、前年比 102.6%となりました。

一方、一般校、社会人の利用は前年比 108.6%、135.7%と好評に終了しました。特に社会人利用は建築関係の研修利用があり大幅増になりました。下期の利用予測としては、前年の国民体育大会の利用穴埋めをするため、SPA 等の主催セミナーを増加し利用増進を図ります。

◆区分別利用状況

宿泊延人数全体の占める区分別の構成比は右記の通りです。

2014 年度開催セミナーのご案内 (現在募集中)

○教員免許状更新講習

日程：1月21日(水)～24日(土) 実施予定。

定員：70名。

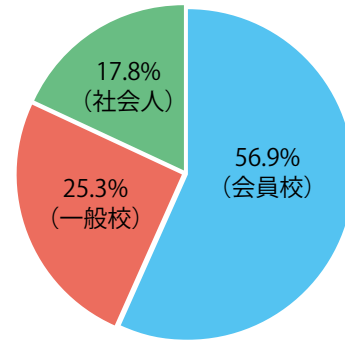
対象：幼稚園・小学校・中学校・高等学校教員

宿泊延人数

区 分	平成 26 年度 (上)		平成 25 年度 (上)	
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比
会員校	11,570	56.9%	11,279	60.3%
一般校	5,154	25.3%	4,748	25.4%
社会人	3,619	17.8%	2,667	14.3%
合 計	20,343	100.0%	18,694	100.0%

利用者区分構成比

■会員校 ■一般校 ■社会人



ご利用の先生より

セミナーハウス合宿によせて

電気通信大学 教授 上野芳康



いわゆるネット情報とそれを支えるデジタル技術のお陰様で学術脳智も産業規模もその量とスピードを大進化させた一方、しばし目先に留まりがちで肝心の「器」が矮小化したように思えてしまいます。すでにギリシア・ローマ時代に生まれたアカデミズムや共和・民主協議方法に比べ、現代の理工学分野で生み出されている科学真理と先端技術の高度さに比べ、私たちひとりひとはどれくらい進歩したのだろうか、と。

私たち専門家がわずか 20 歳台の若者たちにこれらの科学技術・人文社会および大規模産業を引き渡そうとしても彼ら彼女らが難しすぎる(多すぎる)と尻込みしてしまってむしろ当然で、たくさんの mass-〇〇で足りるのではなく、それらの「質」こそ生命線な筈でした。学術環境・学習環境をシステム化しても何か欠けているように思いますし、先人たちはその不十分さを理性的に認識していたと思います。”1965 年”という激動期に生み出され、大学構内でも学会でもそのホテルでもないこの合宿セミナー施設の主旨は、たとえ 50 年を経ても 100 年を経ても変わる事のない普遍的な願望や熱意ではないかと感じてい



2泊合宿中の研究学生たちと本館前で、2014年5月18日。

ます。非力な私自身を棚に上げましたが、今回は何回目だったか少人数の大学院研究室学生達を引き連れ、光工学研究プロジェクト類その他何でも2泊3日あれやこれや対話と雑談を終えて先程解散し、そのまま当地で少々堅い思索を書き留めました。日常から離れた2日間のお陰で今回はカナダ・マギル大学院博士課程在学中の旧知のアジア学生 Noor 君と久しぶり電話会談したり、フランスから首都大に来てインターンシップ開始したばかりだという物理専攻学生 Mathieu 君に出会って語らいました。

50 年を経てもまだまだこれからと、ここセミナーハウスに集まる様々な分野の皆さまのご活躍ご発展を願っています！

○ 会費をありがとうございました

2014年4月～2014年9月

(敬称略)

4月 柳堀素雅子、甲斐義幸、藤井弥太郎、松澤通生、檜田信男、林 肇、海老根宏、小原孝一郎、太田正孝、滝口俊子
5月 金子六郎、瀬戸岡 紘、城 謙輔、澤島侑子、加藤晴久、芳賀 徹、奥山典生、荒井 献、西澤宗英、水谷真智子、朝野洋一

6月 安宅光雄、椿 弘次、中村幸安

7月 黒田道雄、犬塚 博、金谷 憲、入江和生、松島 恵、橋本 智、田島恵児、柏木恵子、古本邦枝、松尾秀雄、小池 滋、米村貞蔵、中山光雄、瀬田裕司、伊藤意智郎、仙田 哲、太幡祐己、柴田 誠、加藤幹夫、柏原啓一、小池生夫、色川大吉

8月 得田保雄、並木信一、佐藤東洋士、村田光二、稲田 拓、荻原洋太郎、八幡義博、栗原 裕、國岡昭夫、荒川由美子、山田耕司、宮野三郎、岡村文子

9月 鈴木一道、藤田淑子、小倉充夫、林 勲、井出久登、林 卓男、福島正久、小堀桂一郎、吉原健吾、滝口 亨、新井勝紘、村上陽一郎、東 壽太郎

会員からのメッセージ

◆周囲の自然に接するなど、多様な活動が学生の人間形成に必要です。大学セミナーハウスの役割は貴重です。支援します。

甲斐義幸

◆健康な体で毎日ウォーキング、ランニング、テニスの出来る幸せを感謝しています。福島原発の問題解決が1日でも早く、早いことを祈るばかりです。学問・科学の進歩に期待します。

太田正孝

◆セミナーハウスを利用させて頂いた日は、遠い昔になりましたが、今も元気にしています。

滝口俊子

◆毎年新録に包まれて学生達と過したセミナーハウスの思い出は忘れ難いものです。益々のご発展を祈っています。

金子六郎

◆千人会費を送らせていただきます。圧迫性骨折で5週間入院し、退院したばかりです。歩行訓練中です。千人会費が心ならず遅くなりました。

澤島侑子

◆小生の誕生日に忘れずにカードを下さるのはいまやセミナーハウスばかり一などややひねくれの気味で御礼申し上げます。しきりに八王子にかよって夜遅くまで学生たちと勉強し騒いだ1960年代末、70年代の小生、学生ともどもに若かったな、となつかしく思い出しております。83翁。

芳賀 徹

◆ついに「年金」が現実的になる年齢になりました。

西澤宗英

◆大学セミナーハウスのますますのご発展をお祈りいたします。

黒田道雄

◆千人会の会費支払いが、大幅に遅れて申し訳ありません。一層の発展を祈っています。

犬塚 博

◆来年開館50周年ということですが、セミナーハウスがここに集う方々の知的好奇心と感性を培う最適の場の一つであって欲しいと願ってやみません。

松島 恵

◆60年の公職生活を終了して、やっと自分の時間を自分で使うようになりました。これからも現役の気持で、研究生活をやりたいと思っています。セミナーハウスで30年はお世話になりましたか。思い出はたくさんあります。

小池生夫

◆大学セミナーハウスの益々の発展を祈ります。

得田保雄

◆千人会、大学セミナーハウスの発展を期待しております。

栗原 裕

◆半世紀にわたっての大学セミナーハウスのご活動に敬意を表し、ますますのご発展を祈念しております。

荒川由美子

◆大学セミナーハウスの益々の御発展を祈念致します。

宮野三郎

◆カードを有難うございます。本年三月で定職はなくなりましたが、却って忙しくしてゐます。世の中が必要として下さることに感謝しつつ、老害になることを畏れてをります。

村上陽一郎

楷の木と鈴木三男吉先生

約50年前の大学セミナーハウス開館式の当日、舗装されていない道は泥んこで、板を渡してやっと歩行できる状態だったという記録が残っています。1965年11月1日に開催された新築落成式典に東京女子大学教授白井常氏が登壇され、記念植樹を提案されたとの記録もあります。開館後、セミナーハウスを利用頂いた方々によって各種の記念植樹がされました。そのおかげで、大学セミナーハウスは緑豊かな丘に生まれ変わり、今日に至ります。

さくら館から講堂へ向かう左手に一本の楷の木があります。1994年5月26日、白梅学園短期大学からの記念植樹です。毎年夏になると「また、楷の木に逢いに来ました」と鈴木三男吉先生（白梅学園元理事長）が楷の木の成長ぶりを見に来られました。鈴木先生によると、楷の木は大正四年、目黒の農商務省林業試験場長の白沢保美博士が曲阜孔子廟より種子を持ち帰り、播種・育成したのが日本では最初だそうです。先生には日本全国の「楷ノ木巡礼―戦前渡来の戸籍を調べて」（1993年）の記録文もあります。

鈴木先生は千人会会員として、毎年来館されて会費を直接お払いいただいた後、楷の木に会って帰られるのが恒例でした。残念なことに2011年の夏、ご子息をともなって来館されたのが最後となり、2013年7月に100歳で逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

毎年のご来館はなくなりましたが、これからもずっと「学問の木」として知られる楷の木とともに、大学セミナーハウスに集う学生たちを見守り続けてくださっているように思います。

(千人会担当者記)



カメラを携えて楷の木の前に立たれる鈴木三男吉先生（2008年）

運営幹事からの一言

平成 26 年 10 月 2 日、大学セミナーハウスの運営幹事会が開催され、桜美林大学、国際基督教大学、駒澤大学、創価大学、中央大学、東京学芸大学、日本女子大学、法政大学、立教大学の幹事の皆様（9 名）にご参加いただきました。

会に先立ち、まずキャンパス見学をしていただくことになりました。グラウンドには、大学セミナーハウスが 50 周年事業の柱として SPA（セミナーハウス・プロジェクトアドベンチャー）の施設があり、皆様にはその中のジャイアントシーソーの体験をしていただきました。全員で声を掛け合いながら少しずつ移動していき、最終的にバランスが取れて見事に成功。お疲れ様でした。

汗をかかれた後は、図書館セミナー室で運営幹事会が開かれ、法人からの説明等の後、皆様からセミナーハウスへの貴重なご意見を頂戴しました。以下はその抜粋です。
(幹：幹事からのご意見。セ：セミナーハウスの回答・コメント)

幹：講堂の防音施設は音楽系の団体や劇団の利用としてはいいと思う。

セ：講堂は 11 月から利用いただけますので、ぜひご利用ください。(※工事の関係で 2015 年 1 月からの利用となりました)

幹：音楽団体の練習場所に苦勞しているので講堂での受け入れは助かる。

幹：11 月 1 日から講堂が利用できるということだが、宿泊した場合の利用時間は？(夕食後に使えるとありがたい)

セ：完成後のシュミレーションで防音に問題がなければ、音楽関係のご利用として講堂は 22 時頃迄利用していただいていると考えています。また、講堂の利用に加え、パートごとの練習が必要な場合は、防音施設ではありませんが図書館セミナー室と大学院セミナー室も利用いただくことができると考えております。

幹：学生部の担当者からは、セミナーハウスは交通の便が悪い、施設がよくない、料金は安くはないが、食事は以前に比べてよくなったとの意見を聞いた。

セ：アクセスの件は、送迎バスの導入を検討しておりますが、運転手、車、バスのコスト面で実現していないのが現状です。施設については、古くなったところをリニューアルすることや、新しく建てる等を考えておりますが、すぐ新たにはできないことも多々ございます。しかし、古くても清潔にはしていく心がけております。

幹：食堂のことで、イスラム教の方々への食事についての対応はどうか。

セ：ハラル食が提供できると謳う調理場所、器具、食、食材が限定されてしまい、更に今現在食材が入手できないこともあります。しかし、マレーシア留学生を 30 年間受け入れてきた経験と、培ったノウハウで、イスラム圏の方々でも抵抗なく食べていただける食事の提供はできていると思っております。

幹：地域に貢献したいという学生や興味のある学生がいるかもしれないし、人件費の削減という面からも、セミナーハウスの運営に学生の力を借りてインターンシップをやってみたら、学生にも広がるのではないか。

セ：検討させていただきたいと思えます。

幹：都内で宿泊ができ、自然豊かで木造の食堂もでき、富士山も見えるかもということで、ここの地形を生かしたキャッチーな PR など取り入れてみてはどうか。

セ：ホームページに掲載するなどセミナーハウスの良さを広報してまいりたいと思えます。

幹：大学でスポーツ系学生にはリーダーズキャンプを数年前からやっており、今までは宿泊施設のない場所で PA を行っていたが、ここも利用する方向で検討しようと思う。

セ：是非セミナーハウスの施設を利用させていただきたいと存じます。

幹：短期留学生の受け入れに対し、学内でも寮などの施設の充実を増やしているが間に合わないので、状況を確認したうえでまた相談したい。

セ：是非ご相談させていただきたいと存じます。

幹：スポーツ推薦の学生について、どういう付加価値をつけていこうかを検討中なので、彼らへのアプローチのひとつとして、セミナーハウスの提案するリメディアル教材の利用を検討したい。

セ：スポーツ推薦の学生に学習支援をすることで卒業のためのお手伝いできればと思っております。

館長室から

大学セミナーハウスは来年、設立 50 周年を迎えます。これを記念して、私たちは①食堂棟の建設、②現存施設のリニューアル、③セミナーハウスの理念を生かす形で導入するプロジェクトアドベンチャー（SPA）の三つを企画し、鋭意、この実現に励んでいます。これらに関してはすでにホームページなどを通じて広報にいそんでいる通りで、今更ご説明するまでもありませんが、それぞれの企画はセミナーハウスの発展に大いに役立ち、かつ来訪者の方々に満足していただけるものと考えています。

これに加えてもう一つ、校内で音楽研究会の練習に励んでおられる人々に朗報があります。かねてから音研の練習場が少なく、どこの学校でも周囲の住民に気兼ねなく練習できる環境を確保するのに苦勞しているという声がありました。セミナーハウス加盟校の職員方による運営幹事会などでもなんとかできないだろうかという要望が出ておりました。セミナーハウスの中には、中央セミナー室という防音設備が整ったところがありますがスペースが十分でなく、これまで小グループの練習しかできませんでした。

この問題を解決するための手段として私たちは、講堂に防音設備をきちんと整えて練習場に活用できるようにいたしました。10 月いっぱいかけて業者による工事を行い、音研の方々による利用が可能になりました。この場所ならば百人ぐらいのオーケストラによる練習も可能です。近隣に迷惑を及ぼすこともなく泊まり込みで練習に励むことができます。1 月から予約を受け付けますので、練習場を求めて苦勞しておられるみなさん、ふるって申し込んでください。お待ちしております。

また、来年は久しぶりに当セミナーハウスでもコンサートを開きたいと思っている次第です。

館長 鈴木 康司



Plain living and high thinking

セミナーハウス・ニュース No.187

発行=公益財団法人 大学セミナーハウス

2014 年 12 月発行

発行人=鈴木康司 発行部数= 3,500 部

編集=大学セミナーハウス セミナー・留学生グループ

制作=中山企画